議事録 兼 報告書

会議名称	伊那市上下水道事業運営審議会
日 時	令和7年7月22日（火） 13:30～15:10
場 所	伊那市役所 庁議室
議 事 内 容	
<p>(進行 水道部長)</p> <p>1 開会のことば 副会長</p> <p>2 あいさつ 会長 市長</p> <p style="padding-left: 40px;">異動職員自己紹介</p> <p>3 会議事項（議長 会長）</p> <p>(1) 水道料金及び下水道使用料の改定について 市長から会長へ諮問</p> <p>(ア) 水道料金の改定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料により、事務局説明 ・質疑無し <p>(イ) 下水道使用料等の改定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料により、事務局説明 ・質疑討論 <p>(委 員) 水道の関係の質問になりますが、資源としての水の量は余裕がありますか。主にはもみじ湖（箕輪ダム）の水ということになるかと思いますが、年々使用水量が減っているということは、水資源が余ってくるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>(事務局) 自己水源もありますし、上伊那広域水道用水企業団から受水している水もありますので、水が不足するという状況にはなっておりません。</p> <p>(委 員) 水資源を大事に使うという基本的な考え方の中で、トイレや洗濯機など、節水型の機器が普及し、節水の意識が染みついているわけですがけれども、仮に人口が減らなくてもそうした節水意識のなかで、使用する水量は減少し、料金収入も減っていくことが自然な流れだと思います。これに人口減少が加わり、相乗的に料金収入が減ってい</p>	

るのが現状だと思います。水は油などとは違い、使わなければそのまま川に流れていくだけですので、水資源に余裕があるのであれば、すぐにというわけにはいかないかもしれませんが、節水という考えを緩めて、水道水をたくさん使ってもらおうという考えに基づく取組も必要ではないかと思えます。ある意味、水道水を売っているわけですので、商売の観点で考えると、できるだけたくさん使ってもらうことで、使用料金も嵩まないような状況になることが望ましいことではないかと思えます。節水でどんどん水を使わなくなり、人口もどんどん減っていき、料金だけが高くなっていくのは、なんとなく寂しい気持ちもあります。ひとつの意見として述べさせていただきました。

(事務局) ご指摘のとおり、昔と比べると節水機器の普及に加え、大家族の減少や核家族化が進行する中で、多量の水を使わなくなっている状況は、全国的にあると思えます。伊那市の傾向としては、アパートなどの単身世帯が増え、水栓の数は増加していますが、使用水量は年々減少しているということで、そうした面での課題は抱えております。そのような中で、伊那市の水道水は、安心・安全でおいしい水であるということをも水道部の若手職員が中心となってPRするような普及活動も行っております。また、漏水等によって収益にならない水をできるだけ減らし、有収率を上げていくという取組も行っておりますし、伊那市の特色ある地形の中でたくさんの小規模な配水施設があるわけですが、ダウンサイジングの検討や、不要資産の売却などにも取り組んでおります。現在の料金体系を維持することが精一杯ではありますが、様々な方法で経営改善に取り組んでおりますし、できるだけ水道水を使っていたくという取組と絡めながら、委員ご指摘のような方向になるように努力していきたいと考えております。

(事務局) 補足になりますが、伊那市では「個別給水契約」という制度を設けております。これは、月に2,000 m³以上の水道水を使用するような企業など、大口の使用者向けの制度になりますが、一定量以上の水道水を使っていた場合には、従量料金を割引させていただくという制度でございます。水需要の拡大という視点での取組としてご紹介させていただきます。

(事務局) 現在は8つの企業等と個別給水契約を締結しております。大口の使用者には、安価に多くの水道水を使っていたらこうということで、このような制度も運用しております。

(会長) 「節水」に関しては、テクニカルな部分で普及してきた面が大きいと思えます。様々な設備・機器メーカーの取組により年々機器が進化し、普段の生活の中で不便を被らず、無意識のうちに節水が可能になったという部分が大きいと思えます。そのような中で意識的に使う量を増やすということは、少し難しい部分があるかもしれません。物価高騰の中、水道以外のところで経済的に苦しい状況もありますので、消費者がどのように捉えるかだと思いますが、水道の分野だけで解決することも難しい部分があるのかなと思ひながらご意見を拝聴させていただきました。

(委員) いくつか質問がありますがよろしいでしょうか。1つは、西箕輪の工業団地に多くの企業が立地していますが、市営水道を利用しているということによろしいでしょうか。

(事務局) そのとおりです。

(委員) そうすると、今後も工業団地では市営水道の需要があるということですね。それから、上下水道ともに維持管理費を見込んで費用を算出していますが、これはギリギリまで抑えた金額なのか、ある程度の余裕を見込んで設定した金額なのかという部分です。あまり締め過ぎてしまうと老朽管の更新等に対応できなくなってしまうと思いますが、適正な金額になっていると理解してよろしいでしょうか。

(事務局) 先ほどお示した令和 15 年度までの投資・財政計画の中では、今後の物価上昇も見込み、現状よりもそうした維持管理コストが増加するという想定の中で作成した内容になっております。将来に向け、施設のダウンサイジングや効率化の検討を進めなければならない部分もありますので、これがギリギリですとまでは言い切れませんが、ある程度の余裕を持った内容ということになります。

(委員) 最後に、コストダウンのことについてお聞きします。現在、電気などは自動検針をしていると思いますが、上下水道もそうした方法を採用すればコストダウンにつながると思います。また、伊那市の上下水道料金は他の市町村と比べ高い水準にあるということで、他と何が違うのか、ベンチマークのようなものはあるのでしょうか。

(事務局) まず検針の関係ですが、現在、多くの検針員の皆さんにお願いして検針をしていただいているのが現状です。全国的には、上下水道の分野でも DX 化を進めるという流れの中で、スマートメーターを導入し、現地へ行かなくても検針ができるような取組も始まっております。ただ、そうした仕組みを導入する場合、現状ではどうしても莫大な導入費用が発生してしまいますので、伊那市のように集落が中山間地に点在するような地域では、まだまだ導入することは難しいのかなと考えております。それから、伊那市の料金が安い理由ですが、広い市域の中に集落が点在しており、急峻な地形のところに水道管や下水道管が通っていたり、配水池があったりします。小規模な施設をたくさん抱えているということが一番の理由になっております。

(委員) わかりました。

(会長) 確かに、伊那市は広い面積の中で急峻な地形も多く、小規模な施設が点在しているため、効率化が難しいというのはそのとおりだと思います。そのあたりを改善するための計画などがありましたら教えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(事務局) 市内の水道管は 600~700km ほどありますが、最近では、耐用年数の長い水道管もありまして、主要な場所にはそのような管が入っております。仮に全ての水道管をそのような管と入れ替えることができれば、向こう 100 年くらいは更新する必要がないということも言えますが、導入費用も高いものですから、道路工事等に合わせて少しずつ布設替えを行っているのが現状です。下水道につきましては、各地に農業集落排水施設が点在しており、昨年も美篁東部の施設を廃止し、公共下水道へ統合しましたが、どうしても地形的な理由などから統合できる場所とできない場所があります。今後もできる施設は統廃合を進めていきますが、できない施設については、長期的な改修計画を立て、維持管理していくという考えで進めております。

(会長) ありがとうございました。確かに 3 年毎などの短い間隔ではなく、長期的な視点で

更新計画を考えていかなければならないと思いますので、引き続きご検討をお願いしたいと思います。先ほど質問のあった DX 化のことですが、これから社会全体がそちらの方向に進んでいくと思いますし、市街地などの密集している地域では、効率よく導入できる可能性もあると思います。伊那市は広いので、一度に全てを切り替えることは難しいと思いますし、現実的ではありませんが、少しずつそうしたことを進めていくことは必要になるでしょうし、そうした時代に入ってきたのだらうと思いますので、事務局でも検討をお願いしたいと思います。

他にはいかがでしょうか。特に下水道使用料については、1 年間は先送りということですが、令和 9 年度から 1 割程度の値上げをせざるを得ない状況であるという説明でございました。確かに細かく見ていくと、致し方ないのかなと思うところがありますが、市民生活に直接関わってくる部分でもありますので、この審議会のなかでも十分に議論を尽くす必要があると考えております。ご意見はございますでしょうか。

(委員) 資料 No. 2 の 9 ページ下段にある一般会計からの出資金のことですが、地方公営企業は独立採算が原則ということですが、出資金の繰入を廃止したタイミングから収支のマイナスが発生してくるよう見受けられます。他の市町村は同様の出資などを行っていないのか、それとも一般会計からの資金投入を継続的に行っているのか、という部分をお伺いしたいと思います。

(事務局) 具体的な内容は公表されていませんので、金額等の詳細は把握していませんが、市町村によっては、一般会計から何らかの形で繰入を行っている事業体もあることは承知しています。

(委員) 「原則としては、」という部分はよく理解できますし、令和 8 年度は一般会計からの繰入金によって値上げを先送りするということですがけれども、今後さらに物価高が進んでいくと、値上げを繰り返さなければならなくなり、結果的にその負担は市民の皆さんがしわ寄せを受けることになってしまいますので、原則どおりに進めていくことを良しとしてよいのか、仮に法律上問題がなければ、繰入金によって値上げを回避してもよいのかという部分が、非常にファジーだと思いました。そのあたりをどう判断していくことが良いかということは分からないのですが、一般会計からの繰入は絶対にダメなのか、ある程度の融通は認められるものなのか、そのあたりはどのような感じなのでしょうか。

(事務局) 一般会計に潤沢な基金がある場合など、しっかりとした財政的な裏付けがあれば、一般会計から繰入を行うこと自体は違法ではないと認識しております。ただ、一般会計の基金残高も厳しい状況になってきておりますので、基本的には一般会計からの繰入金に頼ることなく、自分たちの事業収益の中でなんとかやっつけていこうという趣旨に基づく内容となっております。

(委員) 本丸のほうも財政的に厳しいので、どうしても値上げせざるを得ないということであれば、やむを得ないのかなと思います。一般会計も稼げるわけではないと思いますので、今後、基金の額が回復し潤沢になってくれば、状況は変わるかもしれないということですね。

(事務局) そのとおりです。

(委員) わかりました。

(会長) ありがとうございます。なかなかシミュレーションできないところですので、難しい部分かもしれませんね。1年の据置期間の中で様子見ということもできるかもしれませんが。

(委員) 物価高騰の中で、ずっと料金を据え置いたとしても、課題を先送りしているだけで、本質は変わりませんし、そうした中で老朽化していく施設は更新していかなければならないというジレンマの中にあるんだという状況は良くわかりました。

(会長) ライフラインですので、ある程度は市民が等しく負担しなければならない部分もあるかと思いますが、高度経済成長期と現在は全然違いますし、現状で問題だと感じるのは、人々の生活に格差が生じていることではないかと思います。生活が厳しい人は本当に厳しい状況になっていますし、昭和の時代とはかなり変わってきたと感じます。ライフラインというのは、全ての人に関係してくるものですので、非常に大事なことは分かりますが、上下水道だけで解決できる問題ではないような気がします。様々な手当等を踏まえたうえでの話であると思いますので、上下水道の料金をどんどん釣り上げていけば解決するという問題でもないですし、正にバランスが重要ということだと思います。人口減少の部分は、ある程度の予測やシミュレーションができていますが、経済的な部分は不透明なことが多く、どうなるか分からないという側面もあります。今回説明のあった11.4%の増額で本当に経営を持続できるのかということも、当然ある程度の余裕をもって導き出された金額であるとは思いますが、難しい状況になるかもしれません。3年に一度この審議会の中で料金を見直すことになっておりますけれども、改定の年以外も毎年度の収支の状況を報告していただいておりますので、内容を審議することになっておりますので、本審議会の委員としてどのように推移してきたのかということはしっかりとチェックをしながら、意見を述べていく必要があると思いますし、合理化が着実に進んでいるかどうかという部分も非常に重要な視点になると、本日改めて感じたところでございます。

答申書にどのように表現していくかという部分は、次回の審議でお願いする予定ですから、今日この場で何かを決めるというわけではございません。次回のベースとして、知識や情報を共有したうえで、諮問に対して我々はどう答えていくのかという部分の検討は次回になりますので、今日は忌憚なくご質問やご意見をいただければと思います。

(委員) 先ほどのDXの関係で、スマート検針の話になりますが、市内には周辺部の人口密度の低い地域があるので導入が難しいという話でしたが、様々な通信網を使えるという話であれば、周辺部こそ先行して導入を考えていく方が効率よく情報を集められるのではないかという気がします。市街地からではなく、郊外の周辺部から進めていくことが良いと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

(事務局) 先ほど回答した内容は、周辺部への導入が難しいという話ではございません。県内では、飯綱町などが試験的に導入していきまして、豪雪地域では検針員が量水器のある

場所にたどり着けないなどの課題があるようです。ご意見のとおり、検針が大変な中山間地などへの導入を優先させるべきであるという認識を改めて持ちましたので、今後の参考にさせていただきたいと思います。

(事務局) スマートメーターの導入がなかなか進まないという背景には、コストの問題がございます。計量法では、水道メーターに限らず、メーターは8年に1度検定を受けなければならないとされておりますが、水道メーターは全てのご家庭を訪問して一つひとつ検定をすることが難しいため、新しいメーターと交換しております。そのメーターをスマートメーターに変えますと、メーターの単価が何倍にもなってしまい、さらにそれを8年に1度交換しなければならないという部分がネックになっています。現在、東京都水道局のように大口需要のあるところがスマートメーターの導入に取り組み始めたということで、たくさん生産されれば、単価も下がってくるのではないかと期待しているところでございます。国でもスマートメーターの導入というのは方針として出しておりまして、そうした部分への補助金等による財政措置も出てきておりますので、今後加速化していくのではないかと考えておりますし、まずは検定の間隔を延長してほしいという要望も業界全体で行っております。遠隔で検針する方法はいろいろとあり、電波による方式もあるのですが、メーターが地中にあたりすると電波が届かないという課題もあるようです。電力会社の通信網へ委託するという方法が現実的などころではないかと考えております。また、検針員も高齢化しており、今後検針員の確保という部分も課題になりますので、全国的にスマートメーターの導入は進んでいく方向だと思っておりますし、進めざるを得ない状況になると考えております。

(会長) 工業製品は、量産体制に入れば価格も落ち着いてきますし、これからに期待という部分が大いにあると思います。先進的に導入している事業体の情報なども審議会のほうへ提供していただく中で、この会の中でも議論をしていけるとよいのかなと思いません。

(ウ) 次回審議会の日程の改定について

- ・ 8月下旬に開催予定 13時30分から
- ・ 日程については、正副会長と調整のうえ、会場も含めて後日連絡する

(2) 令和6年度水道事業及び下水道事業等の決算状況について

- ・ 資料により、事務局説明
- ・ 質疑なし

(3) 水道事業および下水道事業経営戦略の進捗状況について

- ・ 資料により、事務局説明
- ・ 質疑なし

(4) その他

- ・なし

4 その他

- ・次回会議日程の確認（8月下旬に開催予定）

5 閉会のことば

副会長

以 上